

J A 全農ちば

営農情報集

(12月号)

今月の情報

1. 園芸野菜病害虫情報
 2. サツマイモポット苗育苗と防除のポイント
 3. 安全な農作物生産の取り組みについて
- ☆ 農薬・肥料の保管方法 ☆

12月の気象について（気象庁 11/26 発表 長期予報（1か月）から）

- ① 12月は平年並みの気温で、天候も安定する予報です。
- ② 作物の生育にも好条件のため、豊作傾向が続くと予想されます。一方で、病害虫の発生も想定され、特に施設では病害発生に注意が必要です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



(長期予報(1か月)は毎週木曜日に発表されます。週予報とともに確認し、今後の栽培管理の計画を立てましょう)

注意とお願い

農薬登録は掲載時点の内容です。農薬を使用する際には、最新の登録内容をご確認ください。

営農技術情報集のカラー版や、その他の営農情報は全農ちばHP内営農情報コーナーにて公開中!

全農ちばHP < <http://www.cb.zennoh.or.jp/index2.html> >

園芸野菜 病害虫防除情報

1 はじめに

気象庁より12月は平年並みの気温となる予報が発表されており、各作物の生育は順調に進むと思われていますが、一方で病害虫も発生しやすい条件となります。

特に施設栽培では夜間の閉め切りによって湿度が高まり、葉かび病・うどんこ病・灰色かび病などの病害が拡大しやすい環境となります。薬剤防除と合わせて、換気や葉かき後の残さ処分など、耕種的な対策も重要となります。

2 果菜類共通(灰色かび病・うどんこ病)【トマト・キュウリ・ナスなど】

(1) 灰色かび病

ア 灰色かび病の胞子は、咲き終わった花卉・枯れた葉先等にまず定着し(死物寄生)、健全な部位へと移ります。

果実に付着した花卉や摘葉した葉は発生源となるので取り除きましょう。

イ 灰色かび病が発病した葉や果実は通路に放置せず、必ずハウス外へ持ち出し埋却処理等による処分を行いましょう。

ウ 灰色かび病は高湿度を好みますので、日中は換気を行い、施設内が過湿にならないよう管理しまししょう。



処分予定の収穫物をハウス内に放置しない

(2) うどんこ病

うどんこ病についても、葉かび病と同様に適切な摘葉・湿度管理が重要です。

【トマト・ナス等のナス科作物について】

ア 表生型と内生型の2種類がありますが、内生の方が防除困難です。内生型は葉の内部に菌が広がり、葉が黄化した後に表面に灰色のカビが発生します。

イ 内生型は適温18~25℃、感染~発病まで16~21日ほどと期間が長いため、防除が遅れがちです。殺菌剤の予防効果は基本的に発病後には得られないため、治療剤に頼らざるを得なくなり薬剤の選択肢が少なくなってしまいます。

ウ 内生型は主に葉裏の気孔から侵入するので、葉裏まで薬剤がかかるよう散布しまししょう。

【キュウリ】

ア 発病適温は15~28℃で、乾燥条件で菌が飛散し、飛散後に湿度があると感染しますので、乾燥と多湿の繰り返しが発生を助長させます。

イ 胞子は葉の表裏両面に発生しますが、これは水で一時的に流すことが可能です。薬剤散布時は洗い流すように十分に薬液を散布しまししょう。



○トマト 灰色かび病・うどんこ病 防除薬剤 ※

対象病害	FRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
灰色かび・ うどんこ病	M7	ベルコートフロアブル	2000～4000倍	収穫前日	3回以内	予防
	7	アフエットフロアブル	2000倍	収穫前日	3回以内	予防
	9+U13	ショウチノスケフロアブル	2000倍	収穫前日	2回以内	予防・治療
灰色かび 病	12	セイビアーフロアブル 20	1000～1500倍	収穫前日	3回以内	予防
	1+10	ゲッター水和剤	1000～1500倍	収穫前日	5回以内	予防・治療
うどんこ病	3+U6	パンチョ TF 顆粒水和剤	2000倍	収穫前日	2回以内	予防・治療
	50	プロパティフロアブル	3000倍	収穫前日	2回以内	予防・治療

○ナス 灰色かび病・うどんこ病 防除薬剤 ※

対象病害	FRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
灰色かび・ うどんこ病	M7	ベルコートフロアブル	2000倍	収穫前日	3回以内	予防
	7	アフエットフロアブル	2000倍	収穫前日	3回以内	予防
	9+U13	ショウチノスケフロアブル	2000倍	収穫前日	2回以内	予防・治療
灰色かび病	7+11	シグナム WDG	1500倍	収穫前日	3回以内	予防・治療
	12	セイビアーフロアブル 20	1000～1500	収穫前日	3回以内	予防
	1+10	ゲッター水和剤	1000～1500	収穫前日	5回以内	予防・治療
うどんこ病	3+U6	パンチョ TF 顆粒水和剤	2000倍	収穫前日	2回以内	予防・治療
	50	プロパティフロアブル	3000倍	収穫前日	3回以内	予防・治療

○キュウリ 灰色かび病・うどんこ病 防除薬剤 ※

対象病害	FRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
灰色かび・ うどんこ病	M7	ベルコートフロアブル	2000倍	収穫前日	7回以内	予防
	9	フルピカフロアブル	2000～3000倍	収穫前日	4回以内	予防
	7	アフエットフロアブル	2000倍	収穫前日	3回以内	予防
		ケンジャフロアブル	1500倍	収穫前日	4回以内	予防
うどんこ病	9+U13	ショウチノスケフロアブル	2000倍	収穫前日	2回以内	予防・治療
うどんこ病	50	プロパティフロアブル	3000～4000倍	収穫前日	3回以内	予防・治療
灰色かび病	12	セイビアーフロアブル 20	1000～1500倍	収穫前日	3回以内	予防
	2+10	スミブレンド水和剤	1500～2000倍	収穫前日	5回以内	予防・治療

※以下の剤は混合剤のため、それぞれ総使用回数に注意

- ①ショウチノスケはガッテンとフルピカの混合剤
- ②ゲッターはトップジンMとの混合剤
- ③パンチョはトリフミンとの混合剤
- ④スミブレンドはスミレックスとの混合剤

2 葉かび病・すすかび病【トマト】

感染から発病まで14日以上かかり、下葉から徐々に発生するので、現在発病している葉の数段上まで感染している恐れがあります。予防剤は主に感染前でないと効果を発揮できないので、すでに発生が見られる場合は治療剤を加えた防除ローテーションを行いましょう。



○トマト 葉かび病・すすかび病

対象病害	FRACコード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
葉かび・ すすかび	M7	ベルコートフロアブル	2000~4000倍	収穫前日	3回以内	予防
	M5	ダコニール1000	1000倍	収穫前日	4回以内	予防
	7	アフェットフロアブル	2000倍	収穫前日	3回以内	予防
	11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000~3000倍	収穫前日	3回以内	予防・治療
		アミスター20フロアブル	2000倍	収穫前日	4回以内	予防・治療
	7+11	シグナムWDG	2000倍	収穫前日	2回以内	予防・治療

3 イチゴ(うどんこ病)

- 適温は20℃前後で、乾燥と多湿を繰り返すと被害が拡大します。冬場閉め切っているハウスはうどんこ病の好適な環境になるため、多発しやすくなります。
- ショウチノスケフロアブルやプロパティフロアブルのような治療効果を持つ薬剤は発生前～発生初期に使用し、予防剤でうどんこ病が低密度の期間を長く保つことが上手な薬剤の使い方です。



○いちご うどんこ病 防除薬剤

対象病害	FRACコード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
うどんこ病	M7	ベルコートフロアブル	2000~4000	収穫前日	5回以内	予防
	7	アフェットフロアブル	2000	収穫前日	3回以内	予防
	9	フルピカフロアブル※	2000~3000	収穫前日	3回以内	予防
	9・UN	ショウチノスケフロアブル※	2000	収穫前日	2回以内	予防・治療
	50	プロパティフロアブル	3000~4000	収穫前日	3回以内	予防・治療
	4+UN	パンチョTF顆粒水和剤	2000	収穫前日	2回以内	予防・治療

※ショウチノスケフロアブル・フルピカフロアブルは使用回数が共通なので注意。

作成：名雪

サツマイモポット育苗と防除のポイント

J A全農ちば
営農支援部

本年も1月中旬よりメリクロン苗の配布が始まります。今年は例年と比べ暖冬傾向と予想されております。以下の点に注意し、特にトンネル管理をはじめ高温による「ヤケ」に注意した管理をお願いいたします。また、ご注文がお済でない方はお近くのJAへ問い合わせ下さい。

ポット苗 育苗管理

1. 育苗床の準備

- (1)ポット苗の届く1カ月前を目安に苗床の準備を行う。
- (2)前年、つる割れ病などが発生した苗床は太陽熱消毒などの実施が望ましい。(夏季)
- (3)肥料は窒素・りん酸・加里を㎡当たり20～30g(分量)入れる。
- (4)窒素の半量は緩効性肥料を使う。

★ポイント★

育苗中になるべくイモの着生を抑える→苗の伸長が良くなる

2. 苗が届いたら・・・

- (1)生育不良株がないかを確認。
- (2)赤根を取り除きただちにポット苗を定植する。
- (3)定植後はたつぷりと灌水を行う

★ポイント★

夕方の保温は早めに行い夜温の低下を防ぐ(午後3時頃を目安)

3. ポット苗定植後の管理

- (1)活着まではしっかり保温し夜間は状況に応じ保温シートなどをトンネルの上にかける。
 - (2)ハウス内の地温を25～30℃程度で維持する。
 - (3)ハウス内の気温は、日中25～30℃、夜間は最低15℃を維持する。
 - (4)低温と土壌の乾燥は生育を停滞させ増殖率の低下を招く(芋の着生など)
→保温と灌水(1回の量を減らし回数増やす)をしっかりと行う。
 - (5)採苗後は追肥を行い(㎡あたり窒素で30gを目安)草勢を維持することが増殖率を上げるポイント。
- ・晴天時はトンネル換気に注意し葉焼けを防ぐ。

★ポイント★

ハウスのビニールが新しい時は特に注意!

べにはるか育苗の留意点

「べにはるか」は、「ベニアズマ」に比べ、苗の伸長が遅く節間が短い。また側枝が出やすい(多くの側枝が出すぎて、1本ずつの伸長が遅い。)

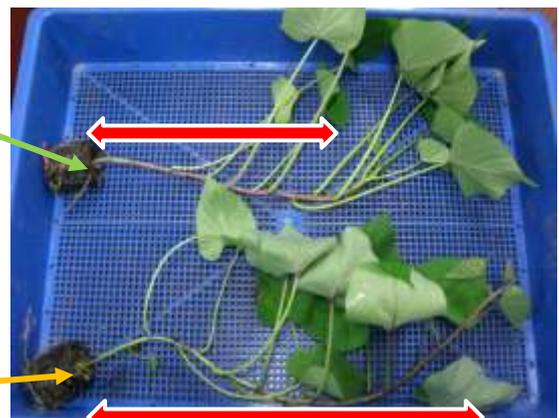
→「ベニアズマ」の育苗よりも温度と湿度を高めに管理することが重要!!

(日中の気温を33℃、夜温20℃以上を目安)



べにはるか

ベニアズマ



病虫害防除

○防除を考えるときに注意すること

ハウスで発生している害虫は何？ハウスで初発生したのはどこ？いつですか？

前年発生した場所・時期は特に注意して観察し、早めの防除を心掛けましょう。

1 つる割病 前年発生が見られた育苗床は要注意

土壌伝染性で苗の切り口や細根の傷口から侵入し、感染する。

茎の地際部が縦に裂開してつる割れとなり、葉は紫褐色から黄変して落葉する。

(1)防除薬剤

床土・堆肥：クロールピクリン剤※ 3～6ml/1回 1穴（処理後、被覆が必要）

※クロピク 80、ドロクロール、ドジョウピクリン等 使用回数は合わせて1回

苗：ベンレート水和剤 500～1000倍/1回

植付前20～30分間苗基部浸漬 もしくは挿苗時株元灌注（20～40ml/株）

(2)夏季の太陽熱消毒

梅雨明け頃から育苗ハウスの太陽熱消毒をすることで、つる割病、立枯れ病、ネコブセンチュウ等の防除効果があります。以下の手順で行ってください。

ア 育苗終了後、株を抜き取り残渣等がない状態にする。

イ 灌水チューブで一昼夜を目安に十分かん水した後、古ビニールやポリフィルムでハウス全面を被覆する。

ウ その後、20～40日間ハウスを密閉し、高温状態を維持する。

2 アブラムシ類

・生育初期につるの先端に寄生し、ウイルス病を伝搬する。

・葉に寄生し、吸汁加害するため、生育が抑制される。

防除薬剤：アドマイヤー顆粒水和剤 10000倍 収穫7日前まで/2回以内

トレボン乳剤 1000倍 収穫7日前まで/3回以内

コルト顆粒水和剤 4000倍 収穫前日まで/3回以内

3 ハダニ類

・葉裏に寄生し、葉を吸汁加害して生育が抑制される。葉表から吸汁場所がかすり状に透けて見える。

防除薬剤：マイトコーネフロアブル 1000倍 収穫3日前まで/1回

コロマイト乳剤 1000倍 収穫前日まで/2回以内

コテツフロアブル 2000倍 収穫前日まで/2回以内

4 コナジラミ類

・成虫、幼虫が葉の裏面から吸汁して加害する。

・密度が高くと白化現象、退色、萎凋等が起こることがあり、すす病も併発する。

防除薬剤：サンマイトフロアブル 1000～1500倍 収穫前日まで/2回以内

ベストガード水溶剤 1000倍 育苗期/3回以内

コルト顆粒水和剤 4000倍 収穫前日まで/3回以内

作成：向後

安全な農作物生産の取り組みについて

☆農薬・肥料の保管方法☆

J A全農ちば 営農支援部

1. 農薬と肥料はきちんと保管しましょう！

農薬には毒物劇物などの危険物が、肥料には発熱・発火・爆発の恐れがある肥料があり、使用方法を誤ると事故につながる資材であることを改めて認識する必要があります。特に盗難や紛失した場合、その後に起こりうるリスクは非常に大きいです。また家族・従業員による農薬の誤飲、誤使用のリスクを無くすためにもきちんと保管をしましょう。

2. 農薬の保管方法



施錠をしましょう！

⇒農薬の盗難、紛失未然防止

(左記画像は蝶番と南京錠を利用した例)

医薬用外毒物劇物の表示をしましょう！

⇒事故の未然防止

ペットボトルへの移し替え禁止！

⇒誤飲事故防止、全国で見ると未だ誤飲による事故が発生しています

3. 肥料の保管方法



野ざらしは×！

⇒風雨にさらされ成分が流出する事を防止。直射日光と風雨を避ける為、屋根があるところに保存、またはブルーシートなどをかけるのも◎。

直置きはしない！

⇒パレットなどの上に肥料は置き、直接土・床の上に置かないこと。

4. 在庫管理について

農薬と肥料は購入数・使用数がわかるように在庫管理を行いましょう。栽培記録等で使用量の詳細が把握可能であれば、袋・ボトル数単位の管理から始めることが良いでしょう。在庫管理をすることで、無用な追加購入を避けることができます。また盗難等の事件・事故が発生した場合に、迅速に状況を把握することが可能であり、さらに自身の使用状況を客観的に他者に伝えることが出来ます。(以下記録の例)

資材A	8月1日	8月5日	8月27日	9月5日	9月19日	9月25日	10月8日	10月18日
入庫(kg)	80				90			
出庫(kg)		15	15	15		15	15	15
在庫(kg)	80	65	50	35	125	110	95	80

作成：名雪・田代